令和元年九月投句

開聞岳裾野を濡らす秋の潮　清掃の公園おんぶバッタ飛び

秋の潮島につながる砂の道　節子　鉦叩さみしけれども庭豊か　真理子

トロ箱に曲がる太刀魚重ねられ　逸れ鷹低く流れて尾根に入る

太刀魚を切る包丁の無頓着　鍾乳洞幾千年を水澄みて

稲妻に曝け出されし夜の雲　勝利　釣り糸の太刀魚銀に波打てり　由紀子

偲ぶ恋問ひつ分け入り竹の春　稜線を神域となし今日の月

一日の無事を安堵や鉦叩

無造作に太刀魚売りて港町　光子

敬老の日の母の声大きくて